



「さがみはらSDGsアワード2024」の受賞団体決定について

市内の企業、団体によるSDGsに関する優れた取組を表彰する「さがみはらSDGsアワード2024」の受賞団体が決定しましたのでお知らせします。

1 受賞団体

- ・相模原市長賞：株式会社イノウエ
「INOUE サステナプロジェクト～組む・織る・編む～」
- ・優秀賞：NPO 法人さがみはら子どもの居場所サミット
「さがみはら子どもの居場所サミット
～こどもの こどもによる こどものための 居場所づくり～」
- ・協働賞：青い鳥（福祉と環境を考えるボランティアグループ）
「つなぐ～福祉と環境を考える活動から被災地支援等の活動へ～」
- ・審査委員特別賞：市立橋本小学校
「橋本小オリジナル『相模原つめこみ弁当』づくり」
：NPO 法人ぴあっと
「こどもの発達のみかたをふやす
～こどもの発達の味方をふやし こどもの素敵な見方をふやす～」

※受賞団体の詳細は、別紙またはHPをご覧ください。

<https://sdgs.city.sagamihara.kanagawa.jp/award2024/>

2 その他

- ・募集期間 令和6年6月25日（火）～8月30日（金）
- ・応募総数 22団体
- ・授賞式 令和6年10月24日（木）
- ・開催者 主催：さがみはらSDGsアワード実行委員会（実行委員長：九嶋 俊彦）
共催：公益社団法人相模原青年会議所、公益社団法人津久井青年会議所、
相模原市



問い合わせ先
みんなのSDGs推進課
電話 042-769-9224

【さがみはらSDGsアワード2024相模原市長賞】

株式会社イノウエ

INOUEサステナプロジェクト～組む・織る・編む～

取組概要

- 地域の伝統工芸である「津久井の組みひも」を年間1万6千km生産しているが、紐のうち**廃棄される112kmを地域の高齢者や身体の不自由な方々の手で商品化し販売する取り組み。**
- 生産された商品は、地域の観光拠点である、宮ヶ瀬の「**鳥居原ふれあいの館**」において販売を行っている。

ポイント

- 廃棄されるゴム紐を地域の高齢者や身体の不自由な方が、織り機等を用いて商品を製作することで、**廃棄物の削減及び超高齢化が進む津久井地域において、地元の伝統工芸を通じて地域の活性化を図る取組。**
- 地域を巻き込んだ取組を進めることで、地元の伝統工芸である「津久井の組みひも」に触れる人を増やし、老若男女問わない人々のつながりを深めることにより、**次世代に繋がる地域の基盤づくり**に資するとともに、取組の認知度を向上させ、**市民のシビックプライドを高める取組。**
- 環境負荷を考え、再生可能資源であり**生分解性素材でもある「紙管」と廃棄される組紐でチェア**を製作。

今後の展望

- 2030年に**廃棄量の半分以上を商品へと作り変える。**
- 近隣の美術大学とのコラボ及び高齢者や身体の不自由な方々による商品を収益化することで、地域の活性化及び「津久井の組みひも」の認知度を向上させ、**次世代へ伝統工芸を繋げていく。**

協働

- **日本化工機材(株):チェアの骨格となる紙管の製造**
- **有限会社鳥居原:商品の販売**
- **相模原市立鳥屋学園:商品の展示**



審査委員長コメント

地域の伝統工芸である組ひもの再利用を高齢者や身体の不自由な方々とともに
に行う取組は、シビックプライド醸成のきっかけづくりにつながり、相模原ら
しい循環型社会の取組であるとともに、健康予防や活躍の場の提供など、工夫
しながらステークホルダーを巻き込んで実施している点は、複数のゴールに繋
がる取組でもあり大きな評価に値します。また、本業の中で工夫しながら取組
を行う点も非常に魅力を感じました。今後、相模原らしいSDGsの取組とし
て、更なる事業の発展を期待します。

【さがみはらSDGs アワード2024優秀賞】 NPO法人 さがみはら子どもの居場所サミット

さがみはら子どもの居場所サミット
～こどもの こどもによる
こどものための 居場所づくり～

取組概要

- 地域の子ども食堂や無料学習支援団体の連携強化と子どもたちの居場所づくりを促進し、県内外への波及効果を目指すためのイベントを開催。子どもたちの意見を反映した居場所づくりをテーマとした講演やこどもの居場所に関する団体のブース、試食コーナーを実施。

ポイント

- イベントを通じて、地域社会が子ども支援の重要性を認識し、企業・市民・行政が連携して子どもたちの居場所づくりに取り組む動きが広がっている。
- 子ども食堂や学習支援団体の連携強化により、地域の支援ネットワークを構築。
- 当事者の声をイベントに反映させるため、市内在住の小4～小6の子どもたちによる「こども委員会」を設置。

今後の展望

- 市内全区での定期開催を実現し、子ども食堂や無料学習支援団体との連携を強化して、地域全体で子どもたちの居場所づくりを支える仕組みを確立。

協働

- 市内飲食店：子ども食堂試食コーナーの実施
- 市社会福祉協議会：ステージ登壇
- 有限会社らいふ：チラシ無償ポスティング
- ヒヤクキチ：こども食堂「なのはな」の運営
- 居場所づくりかけはし：学生スタッフの運営



審査委員長コメント

こどもの居場所を支援する複数の団体が一つになり、民間のプラットフォームとして仕組みを構築していることは力強く感じるとともに、市内各地に取組の面的な広がりが伺えることは、特筆すべきところがあります。こども基本法の基本理念に掲げられている「こどもの意見」を尊重しながら事業を行っており、今後、さらに多くのつながりによって相模原独自の社会システムになっていくことを期待します。

【さがみはらSDGs アワード2024協働賞】

青い鳥（福祉と環境を考えるボランティアグループ）

つなぐ～福祉と環境を考える活動から被災地支援等の活動へ～

取組概要

- 使わなくなった衣類等をバッグやポーチ、洋服などにアップサイクルの上で販売し、そこで得た収益を福祉団体や被災地支援に寄附する取組を行う。

ポイント

- 2006年に活動を始め、現在では、毎年約60のイベントでチャリティグッズ販売会を実施。これまでの総額1千万円を超える寄附を実施。
- 令和6年能登半島地震の復興支援を目的にスマートフォンアプリ「まちのコイン」を活用した、チャリティグッズ販売会を実施。販売会では、SDGsパートナーからの提供物品を販売し、全額寄付を行った。
- アップサイクルによる循環型社会の実現及び活動で得た収益を寄附することでの社会貢献。
- 企業や団体による販売会における人員提供や安価な仕入れ協力などによって継続的な被災地支援が可能となっている。

今後の展望

- 地域団体や企業等との更なる連携強化による被災地支援活動の充実化と継続
- 使わなくなった衣類等のアップサイクルによる循環型社会の実現

協働

- SDGsパートナー：チャリティグッズ販売会における販売物品の提供
- たんぽぽの里、さがみはら4R連絡会、こみかる・きっず相模原：販売活動の人員協力
- NPO法人ザ・ピープル：東日本大震災の復興に関するグッズ販売の協力、寄附金の送金の受け手
- エコパークさがみはら等：販売会実施場所の提供



審査委員長コメント

2006年から活動を始め、3.11の復興において、相模原から市民目線で考える支援を行った経験を活かし、いち早く能登半島地震への復興支援に向けて行動を始めるなど、相模原の善意の受け皿として期待を集める取組であり、多くの市民・団体等を力強く巻き込んで活動している点は、協働賞に相応しいものと考えます。蓄積された知見を活かし、今後取組が継続され飛躍されることを期待します。

【さがみはらSDGsアワード2024審査委員特別賞】

橋本小学校

橋本小オリジナル「相模原つめこみ弁当」づくり

取組概要

- 児童が相模原特産の弁当を作るのであれば、なにがよいか調べ・考え、児童の夢の実現に向け、お弁当の容器から中身まで地域の事業者等と連携し相模原つめこみ弁当をつくり、児童と一緒に販売を行う取組。

ポイント

- 校内だけでの取組ではなく、地域との企業や団体と連携しつくりあげ、販売まで行うことより、自分たちで取り組むだけではなかなか得られない使命感や責任感、地域や企業との連動性を児童が感じる事ができた。
- 地域の特色や人材を生かした教育は、社会・地域をより元気にしていくことにつながり、児童のみならず、地域の企業や団体、さらには保護者と地域の大人にも波及効果のある取組となった。
- 通常版は1200円。繰り返し使える容器のプレミアム版は3800円と高価なお弁当であったが、わずか20分で100食(計200食)を完売した。

今後の展望

- 地域の企業や人と協働して、子どもたちの学びの質を高めていく活動づくりを行う

協働

- 252ソーセージ: 弁当の調理と販売の支援
- 一社) さがみ湖森・モノづくり研究所: 弁当容器の製造
- 崎陽軒: 地域に愛されるお弁当づくりのコツの伝授
- アリオ橋本: 弁当の販売場所の提供
- 根小屋ファーム: 相模原野菜の提供



審査委員長コメント

児童の主体性を尊重した多くの事業者を巻き込んだ相模原らしいお弁当づくりは、郷土愛を育む取組であるだけでなく、販売もして200食を完売させたという地域経済の視点でも足跡を残すことにつながり、発案した児童のみならず、支えた周りの大人たちの体制にも魅力を感じました。今後、2回目の審査員特別賞の受賞によって、相模原らしいSDGsを育む風土が橋本小学校に定着し、児童のアイデアを起点に新たなSDGsの取組が生まれ広がっていくことを期待します。

【さがみはらSDGsアワード2024審査委員特別賞】

NPO法人ぴあっと

こどもの発達のみかたをふやす

～こどもの発達の味方をふやし こどもの素敵な見方をふやす～

取組概要

- 発達にゆっくりさや、凸凹があるお子さんとご家族が、自分たちらしく暮らせる相模原市をつくるため、**発達特性の理解促進**のための**出前授業の実施**や発達支援発表会の開催など、**こどもの発達支援に関する活動**を行う地域団体。

ポイント

- 発達特性の理解促進のための**出前授業を市内小学校4校で実施**した。
- 小中学校における**発達支援に関するアンケートを実施**し、結果をまとめた冊子を**小中学校等へ配布**した。
- 森ラボとの協働により、多様なステークホルダーとのつながりを持つことができたほか、**アンケート結果の分析**において、**専門性の高い地域おこし協力隊が協力**を行った。

今後の展望

- 対象年齢を幼児期から成人まで広げ、就労支援や生活支援も含めた、**ライフステージを超えた切れ目ない支援**を実施していく。
- 障がいを持つ子どもとその家族が、より自然に社会に受け入れられるよう、出前授業等を通じて地域や教育機関との連携を強化していく。

協働

- 森のイノベーションラボFUJINO:アンケート調査を共同実施
- 株式会社ウイツコミュニティ:活動への資金支援
- 市社会福祉協議会:出前授業に関する支援
- 児童発達支援センターいっぽ、子育てそうだん広場Haeremai:連携した講座等の事業実施



審査委員長コメント

でこぼこ
発達に凸凹があり支援が必要な子どもの家族のネットワークをつくるだけでなく、出前授業などで普及啓発を行っていくことは、多くの人の関係者意識を高め多様な子どもたちへの分厚い支援につながるのではと思います。「誰一人取り残さない」社会の実現に資する取組であり、家族や子どもたちの安心につながる事が想像されます。今後、さらに充実され相模原モデルとして他の市町村に横展開されるような取組に発展していくこと期待します。